

## 葉いもち防除の徹底を

今年エルニーニョ現象発生による冷夏が予想されています。冷夏にはいもち病がつきものです。防除の徹底を改めてお願いします。

☆いもち病は一旦発生すると広範囲に感染を及ぼします。余り苗のほ場への放置はいもち病の発生源となりますので、補植が終わったら直ちに撤去しましょう。

◎葉いもち予防のため箱処理剤施用や側条施用を行っていない場合は、オリゼメート粒剤を散布しましょう。

箱処理剤を施用した場合は散布の必要はありません。

① オリゼメート粒剤は6月15日頃（12～18日）の散布が目安です。  
散布量：2kg/10a

…もしほ場内でいもち病発生を見つけたら

持ち込み病斑やほ場の余り苗などからの伝染を早期に発見した場合は、**予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン剤）の茎葉散布**を行います。また、営農センターへもご相談ください。



## イネアオムシ（フタオビコヤガ）の防除

ここ数年、イネアオムシ（フタオビコヤガ）の発生が多く、イネの葉が食害され生育の遅れや登熟不良などを引き起こしており、生産者の悩みの種となってきています。

今年の発生量は平年並と予想されていますが、前年多発した圃場ではフェルテラ箱粒剤またはルーチンアドスピノ箱粒剤で防除してください。



イネアオムシの成虫

### ●イネアオムシの発生時期

第一世代 5月下旬～6月上旬  
第二世代 7月上旬  
第三世代 8月上旬

### ●茎葉散布剤

薬剤名	希釈倍率・散布量(10a)
トレボン粉剤DL	3kg

## 冷害対策の確認を ～今年冷夏が予想されています～

### 1. 天気予報をこまめにチェック

冷害には「やませ」によるものと「西風」によるものと2種類のタイプがあります。天気予報をチェックし気温が低くなると予想される場合、生育初期は保温のため昼間止め水とし、用水と水温の較差が最も小さくなる早朝に入水することが有効です。以後は止め水することで昼間の日射を水温、地温上昇に利用しましょう。

### 2. 中干しは早めに

幼穂形成期以降は低温の影響を直接受けるので、7月初旬には中干しを終了させ田んぼにかん水をします。

### 3. 深水管理をし幼穂を保護しましょう

出穂の22～25日前から幼穂の形成は始まります、それ以降に日平均気温20℃以下の低温や最低気温が17℃以下が予想される場合は水深10cm以上の深水で幼穂の保護を図りましょう。

また、減数分裂期（出穂10日前頃）に低温が予想される場合は水深15cm以上の深水にします。

### 4. いもち病に要注意

冷害の年はいもち病の発生が多くなる傾向にあります。苗段階からいもち病防除を徹底し、発生が確認された場合は直ちに治療剤（ブラシン等）を散布し各営農センターにお知らせください

**天候、病害虫に負けない稲づくりを励行しましょう！**



## 水管理で分けつ早期確保。気象変動に対応できる稲づくりを。

今年も春先から温暖な日が続き育苗管理に苦勞された方も多いと思います。田植え作業も本格化、大事に育てた苗を適切な水管理で有効茎歩合の高い稲に作り上げていきましょう。

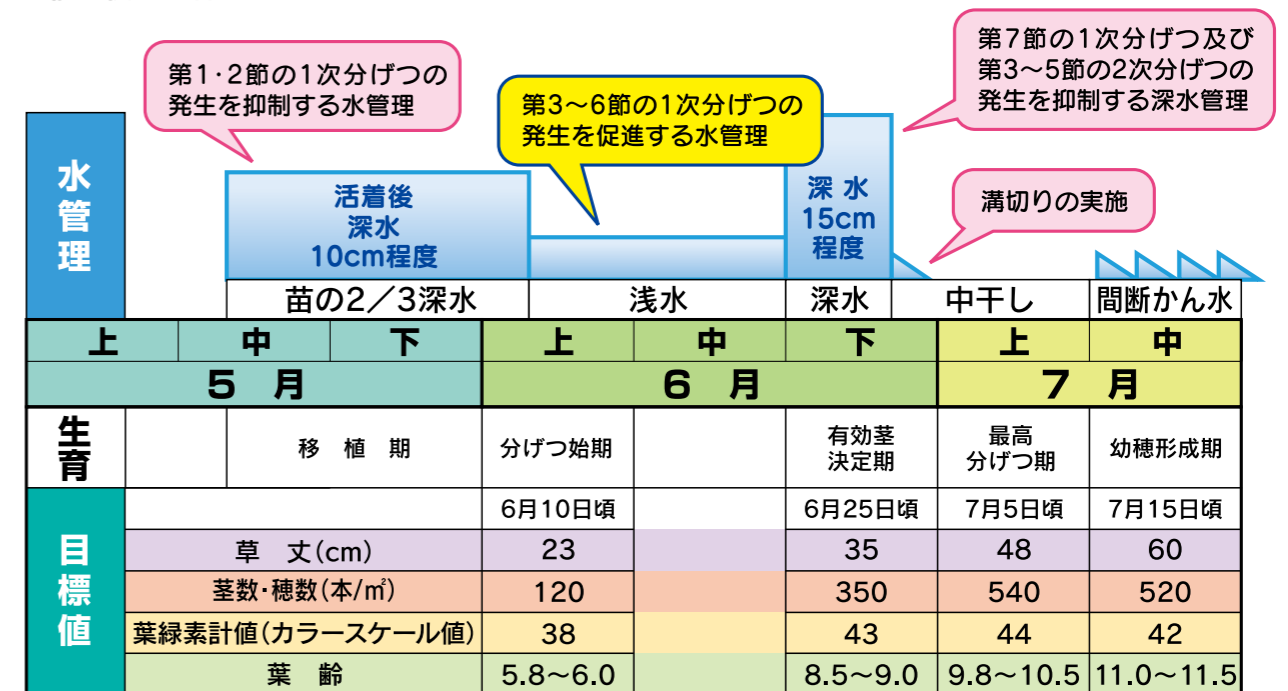
田植えは活着を促進させるためできる限り日中の最高気温が20℃以上の日に行い、最高気温が15℃を下回るような日は極力作業を控えましょう。

田植え時の栽植密度は70株を基本とすることで天候に左右されにくく、安定的に生育・収量を確保することができます。

### 田植え後の水管理

- ① 稲が活着するまで概ね4～5日ほどかかります。田植え直後は活着するまで水深4cm程度とし、保温効果を高めるためできるだけ湛水状態を保ちます。
- ② その後、10cm程度の深水管理を一週間ほど行い、はじめに発生する穂にならない分けつを抑えます。また、除草剤はこの時期に散布します。
- ③ 深水管理を行った後は浅水管理を行うことで日中の温度差を大きくして穂になる分けつを促進させます。
- ④ 目標の茎数を確保したら無効分けつを抑えるため、15cm程度の深水管理を7日間ほど行い、その後中干しを行います。（15cmの水深を確保できる場合に行う。深水できない場合は、直ちに中干しに入り、7月中旬の幼穂形成期までに終了する。）
- ⑤ 中干後は間断かん水とし、冷害の発生が予想される場合は深水管理を行い幼穂を保護しましょう。

### ●田植え後の水管理例



## 雑草生育早まる!? 早めの散布と水管理に注意しましょう

今年は気温が高い日が続いており雑草の生育も早まると予想されます。雑草が残ってしまうと養分競合による生育不良や斑点米カメムシ類による被害により収量、品質が大きく低下してしまいます。

雑草は代かき直後から活動を開始します。初中期一発剤はノビエ2葉期ごろに散布すると最も防除効果が高くなります。下表ではノビエは代かき後約10日で2葉期に達するため、除草剤の散布は代かき後10日を目安に行う必要があります。

また、代かきと田植えの間をできる限り短くすることにより余裕をもって除草剤を散布することができます。

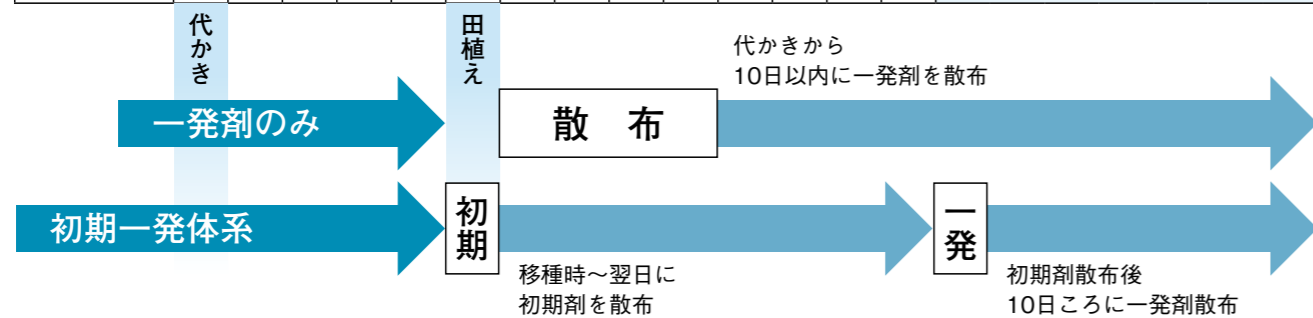
除草剤は散布後、土壌表面に処理層を作ることで効果を発揮します。除草剤を散布する際は水尻をしっかりと止め、ほ場にはできる限り水がたっぷりと張ってある状態にしましょう。

除草剤散布後は7日間は入水、落水を行わず田面に処理層をしっかりと作りましょう。水持ちの悪いほ場など、やむを得ず入水する場合はゆっくりと水を入れるようにしましょう。

### ● 除草剤散布適期例と雑草葉齢進展の目安

- ・ 除草剤散布は草が見える前に散布することが基本です。
- ・ 平年より気温が高いと、葉齢進展スピードは早まります。

代かき後日数	防除可能葉齢					効果限界葉齢					防除困難葉齢								
	0	1	2	3	4	6	7	8	9	10	12	13	14	15	16	17	18	19	20
ノビエ						1.0葉				1.5葉	2.0葉			2.5葉					3.0葉
ホタルイ											1.0葉			2.0葉					3.0葉
コナギ											1.0葉			2.0葉					
アゼナ														1.0葉					



除草剤には得意な雑草、不得意な雑草があります。次ページの一覧表を参考に自分のほ場にどのような雑草が多いのかを考慮して散布する除草剤を選びましょう。

特にホタルイ等のカヤツリグサ科雑草が多いほ場は斑点米カメムシ類のすみかとなってしまう品質が低下する恐れがあるため特に注意しましょう。

前年雑草の量が多かったほ場やオモダカ、クログワイなどの発生期間が長い雑草などは一発剤散布だけでは後発の雑草に対応しきれませんので初期剤との体系処理をオススメします。それでも残草してしまった場合は有効な中後期剤を散布しましょう。

近年、規模拡大により作業面積の増加に伴い除草剤散布が適期に行えていなかったり田植え作業が終わってからまとめて除草剤散布を行う生産者が多くなりました。代かき～田植え～除草剤散布までを一つの行程と考え、除草剤散布の日を設ける等計画的に作業を行いましょう。

## JAオススメ 水稻除草剤一覧 ～使用時期と特徴をよく理解しましょう～

### ● 初期剤

品名	使用時期	特徴
キルクサ1 <sup>※</sup> 粒剤	移植時～ノビエ1葉期	低成分で安定した効果
ソルネット1 <sup>※</sup> 粒剤	移植時～ノビエ1葉期	前年度と違う品種を作付する場合は必ず使用する
メテオ1 <sup>※</sup> 粒剤	移植時～ノビエ1葉期	ノビエ、コナギ、ホタルイに効果が高い
ピラクロン1 <sup>※</sup> 粒剤	移植時～ノビエ1.5葉期	ノビエやSU抵抗性雑草に効果があり残効も長い
ダッシュワン1 <sup>※</sup> 粒剤	移植時～ノビエ1葉期	一発剤との体系処理で難防除雑草対策に有効
シヨキニー250グラム	移植後1日～ノビエ1葉期	豆つぶ剤で散布が楽、ホタルイに効果が高い

### ● 一発剤

品名	使用時期	特徴
ウィナー1 <sup>※</sup> 粒剤	移植時～ノビエ2.5葉期	ノビエを長期間抑える、ホタルイにも効果が高い
バンチャー1 <sup>※</sup> 粒剤	移植5日～ノビエ2.5葉期	オモダカ、クログワイなどの塊茎のある雑草に効果が高い
シリウスエグザ1 <sup>※</sup> 粒剤	移植時～ノビエ2.5葉期	ノビエに対し残効が長くコナギ、オモダカに効果が高い
スパークスター1 <sup>※</sup> 粒剤	移植5日～ノビエ2.5葉期	カナ、表層剥離にも効果があり(抵抗性には効果なし)
バッチリ1 <sup>※</sup> 粒剤	移植時～ノビエ2.5葉期	効果の発現が早く幅広いSU抵抗性雑草に効果がある
コメット1 <sup>※</sup> 粒剤	移植5日～ノビエ2.5葉期	ホタルイ、オモダカ、クログワイなどの抵抗性雑草に効果が高い
アピロキリオMX1 <sup>※</sup> 粒剤	移植時～ノビエ3葉期	水管理の難しい水田でも効果が安定している
ヤイバ1 <sup>※</sup> 粒剤	移植時～ノビエ3葉期	コナギ、オモダカに効果が高い。2成分剤
メガゼータ1 <sup>※</sup> 粒剤	移植時～ノビエ3葉期	ノビエをはじめ抵抗性雑草にも効果が高い
トップガンGT1 <sup>※</sup> 粒剤	移植時～ノビエ3葉期	高葉齢のノビエにも効果が高い、ホタルイにも効果が高い
月光1 <sup>※</sup> 粒剤	移植時～ノビエ3葉期	ノビエを長期間抑える、塊茎のある雑草にも効果が高い

### ● 中後期剤

品名	使用時期	特徴
マメットSM1 <sup>※</sup> 粒剤	移植後15～30日(ノビエ3.5葉まで)	各種抵抗性雑草に効果あり、気温により薬害の可能性あり
クリンチャー1 <sup>※</sup> 粒剤	移植後7日～ノビエ4葉期まで	ノビエ専用剤 1.5 <sup>※</sup> 散布でノビエ5葉まで効果がある
クリンチャーEW	移植20日～ノビエ6葉期まで	ノビエ専用剤 展着剤加用 スポット処理可能
クリンチャーバスME	移植15日～ノビエ5葉期まで	ノビエと広葉雑草を同時に防除可能 落水散布 スポット処理可能
ヒエクリーン1 <sup>※</sup> 粒剤	移植15日～ノビエ4葉期まで	ノビエ専用剤 効果は遅効的だが残効性あり
ヒエクリーンバサグラン粒剤	移植15日～ノビエ4葉期まで	ノビエと広葉雑草を同時に防除可能 落水散布
バサグラン粒剤・液剤	移植15日～55日	広葉雑草専用 落水散布 スポット処理可能
ハイカット1 <sup>※</sup> 粒剤	移植15日～ノビエ3.5葉期まで	クログワイ、シズイに効果が高い 効果は遅効的
フォローアップ粒剤	移植20日～ノビエ5葉期まで	オモダカ、クログワイに効果が高い 効果は遅効的
アトトリ1 <sup>※</sup> 粒剤	移植20日～	オモダカ、クログワイに効果が高い 効果は遅効的

## 【草種別体系処理 例】

各種抵抗性雑草が多いほ場では下記のような初期剤と一発剤の体系処理をオススメします。また、一発剤散布後に雑草が発生した場合は有効な中後期剤を使用しましょう。

